

日本で最も美しい村
鶴居村



鶴居村勢要覧 2024
HOKKAIDO TSURUI



鶴居村

TSURUI VILLAGE
HOKKAIDO

鶴居村勢要覧 2024



[発行]

2024(令和6)年3月

[編集]

鶴居村企画財政課

〒085-1203 北海道阿寒郡鶴居村鶴居西1丁目1番地

TEL 0154-64-2111 FAX 0154-64-2577

URL <https://www.vill.tsurui.lg.jp/>

E-mail tancho@vill.tsurui.lg.jp

[企画・制作]

株式会社 北海道アート社

鶴居村は、北海道の東部、
阿寒湖と釧路湿原の間に広がる小さな村。
特別天然記念物タンチョウは村のシンボルであり、
人とタンチョウが共生する
自然豊かな村として知られています。

人口減少という時代の流れにありながら、
基幹産業である酪農の生産規模は年々拡大し、
意欲ある担い手が村の新たな魅力づくりに励むなど、
産業や人材面でも進化を続けています。

変化を好機ととらえ、前進する活力に満ちているのは、
村民の「ここに住み続けたい」という誇りがあるから。
美しい村づくりに向けてさらに進化するために、
私たちは、「鶴居らしさ」という真価をみがき続けます。



鶴居村は、北海道の東部に位置し、希少な動植物を育む日本最大の湿地「釧路湿原国立公園」を有する自然環境の豊かな村です。

酪農を基幹産業とし、農業基盤の整備、酪農経営の近代化、生活環境の充実に取り組んできたことにより、北海道屈指の「酪農郷」として価値を高めています。

村名の由来にもなっている特別天然記念物タンチョウなどのすばらしい地域資源の保護・保全に努めるとともに、観光基盤の整備、産業の発展と人材の育成に力を注ぎ、次世代に誇れる村づくりを着実に進めてまいります。

「日本で最も美しい村 鶴居村」をより多くの方に知っていただき、本村にお越しいただいた際には、ぜひその魅力と価値を感じていただきたいと願っております。



[村章]
特別天然記念物タンチョウを
図案化し、上にあげた羽で村
勢の発展を願い、平和と円
満団結を象徴したものです。



鶴居村長
大石 正行



[村の鳥] タンチョウ



村長 大石 正行 (写真中)
副村長 長尾 法明 (写真左)
教育長 村上 明寛 (写真右)



[村の花] コスモス



[村の木] シラカバ



[目次]

- 02イントロページ
- 04村長メッセージ・目次
- 06**タンチョウ**
- 10**自然環境**
- 12**酪農**
- 14**食文化**
- 16**鶴居村営軌道**
- 18「日本で最も美しい村」連合の加盟自治体として
- 20**つるい未来創造プラン** (第5次鶴居村総合計画)
- 22**地域特性を活かした活力あるむらづくり**
[産業・雇用・観光]
- 24**ともに支え合い生き生きと暮らせるむらづくり**
[保健・医療・福祉]
- 26**安心・安全で快適に暮らせるむらづくり**
[生活環境]
- 28**豊かな自然と共生する美しいむらづくり**
[環境保全]
- 30**豊かな人間性を育むむらづくり**
[教育・文化]
- 32**みんなで歩む協働のむらづくり**
[地域づくり・行財政]
- 34データで見るやさしい暮らし
- 36公共施設・イベント
- 38位置・地勢・標高・気候・アクセス

日の出から徐々に朝霧が明けていき、目覚めたタンチョウの姿が浮かび上がる。

空に向かって翼を広げ、飛び立つタンチョウ。

青空を切るように白く整列した

風切羽の美しさに目を奪われる。

アイヌの人々がタンチョウを

「サルルンカムイ（湿原の神）」と呼んだのは、

その神々しい姿に心を動かされたからだろうか。

ここは、タンチョウに選ばれた村。

鶴居村の四季は、タンチョウの暮らしとともにある。

春

春はタンチョウの繁殖の季節。

湿原に移動し、なわばりを構えます。

3月下旬から5月に産卵し、約1カ月で枯草色のヒナが誕生。

ヒナは生後数日で親に付いて歩き回るようになります。

親から餌を与えられ成長していきます。



夏

ヒナは、枯草色からだんだんと白い羽に生え変わり、

生後3カ月もすれば

成鳥と変わらないくらいの大きさになります。

生後100日程度で飛べるようになります。



秋

越冬に向け、他地域から鶴居村に

飛来するタンチョウが増えてきます。

主に、刈り取り後のデントコーン畑や牧草地で過ごします。

多いときには、1カ所の畑に

100羽前後が集まることもあります。



冬

自然界で取れる餌が少なくなってきたり、

だんだんと給餌場が集まるようになります。

特に積雪や厳しい冷え込みに伴い、

給餌場への飛来が増えます。



タンチョウ

鶴居村の名前の由来は、国の特別天然記念物「タンチョウ」。村民による地道な保護活動が実を結び、一年を通じてタンチョウの姿を見ることが出来ます。

村内の子どもたちによる給餌活動

厳冬の二大給餌場である「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」と「鶴見台」のほか、村内の小中学校でも給餌活動を行っています。幌呂小学校と幌呂中学校で



幌呂小での給餌活動

は、タンチョウが飛来する際、給餌場の目印としてデントコーンの茎を円錐状に束ねた「にお」を校庭に設置。冬季間にデントコーンを給餌することで、子どもたちのタンチョウへの関心を高めています。また、タンチョウ越冬分布調査にも毎年参加し、大人と一緒に保護活動の成果を確認しています。

最大の越冬地で行うタンチョウ越冬分布調査

毎年12月初旬と1月下旬の年2回行われるタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの生息する道内各地で一斉にタンチョウを数え、記録する調査で、1952年から行われています。国のタンチョウ保護増殖事業の一環として北海道が実施し、鶴居村も調査に参加しています。調査では、約1,500羽のタンチョウが確認され、その



タンチョウ越冬分布調査

半数近くが鶴居村で確認されています。鶴居村は最大の越冬地であることから、鶴居村の結果が全体の結果に大きく影響します。2018年度より、村民有志の協力のもと村内全域で調査を実施し、より正確なデータ収集に努めています。



におを目印に校庭の給餌場へやってきたタンチョウ

鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議

「鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議」は、タンチョウ保護の発祥地としての責任と気

タンチョウ鶴居モデルの理念

(2018年12月決定)

鶴居村に関わるすべての人と組織は、先人がタンチョウを絶滅の危機から救った歴史を誇りとし、将来にわたりタンチョウと共生する鶴居村であり続けるために、タンチョウ鶴居モデルを掲げる。

タンチョウ鶴居モデルは、タンチョウの安定的な生息を保障するため、自然環境と社会環境の向上をすすめ、タンチョウが村民はもとよりすべての人々に愛され、その存在が地域産業の振興と発展に寄与することで、活力のある村となるための取り組みを続ける。

概を持ってタンチョウ保護活動を継続していくために、2018年に発足した官民一体の組織です。鶴居村におけるタンチョウと地

域との共生の目指すべき姿と、その実現に向けた村独自の取り組みを「タンチョウ鶴居モデル」と定義し、望ましい共生のあり方を村

民と共有しながら、継続的に取り組みが実施される道筋をつけていきます。

鶴居村とタンチョウ保護の歩み

1924 大正13年	●鶴居村チルワツナイで十数羽の生存確認
1935 昭和10年	●「天然記念物丹頂鶴繁殖地」として、鶴居村の繁殖地を中心とする一帯が指定
1952 昭和27年	●幌呂小学校で人工給餌が成功する ●「釧路の丹頂およびその繁殖地」が特別天然記念物に指定 ●初の生息状況一斉調査で33羽を確認
1962 昭和37年	●文化庁が初めてタンチョウ給餌人を委嘱 ●下雪裡小学校で給餌を始める
1964 昭和39年	●タンチョウが「北海道の鳥」に指定される ●幌呂小学校に「ツルクラブ」ができる
1967 昭和42年	●タンチョウの名称および指定地域変更特別天然記念物「タンチョウ」地域名を定めず(主な生息地 北海道) ●釧路湿原の5,011ヘクタールが「天然記念物釧路湿原」に指定
1974 昭和49年	●北海道電力が事故防止のため送電線に「タンチョウ用標識」をつける ●下雪裡小学校が閉校
1980 昭和55年	●釧路湿原がラムサール条約に登録
1985 昭和60年	●「鶴居村タンチョウ愛護会」が発足
1987 昭和62年	●釧路湿原国立公園指定 ●日本野鳥の会「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」開設
1988 昭和63年	●タンチョウのバンディング(標識調査)開始
1992 平成4年	●タンチョウによるデントコーン畑での種や芽の食害が増え、追払い活動などの対策が始まる
1993 平成5年	●タンチョウが種の保存法による「国内希少野生動植物種」に指定される
2006 平成18年	●タンチョウ一斉調査で1,081羽を確認、初めて1,000羽を超える
2008 平成20年	●タンチョウコミュニティ発足、下幌呂小学校で餌づくり活動始まる
2016 平成28年	●研究者による調査でタンチョウ1,850羽を確認
2018 平成30年	●「鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議」発足 ●タンチョウ自然専門員を教育委員会に配置

つなごう！未来へ

鶴居村らしい新たな視点でタンチョウとの共生を模索しています



鶴居村教育委員会 タンチョウ自然専門員 音成 邦仁さん

鶴居村は、日本に生息するタンチョウの約3分の1近くが集まる貴重な生息地。釧路湿原がタンチョウを育み、地域ぐるみで給餌活動を行うなど、保護活動に取り組んできた成果といえます。

そうした中で近年、冬になると釧路地方に集中する傾向が強くなったことから、環境省は2015年度から段階的に給餌量を減らし、分散を図るとともに、将来的には給餌を終了させる方針を打ち出しました。そこで、鶴居村が今後の保護活動のあり方を探るために設置したのが、タンチョウ自然専門員です。

この役割を務める音成邦仁さんは、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリのチーフレンジャー、村民有志の保護活動団体代表を経て現職に就任。さまざまな立場でタンチョウの保護活動に関わってきたエキスパートです。「タンチョウ自然専門員としての初仕事は、鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議の運営。タンチョウ鶴居モデルをもとに、地域・人・産業と共生する鶴居村独自の保護活動を確立すべく取り組んでいます。従来の「保護、の考え方は、生き物に対して何ができるかが重視されてきましたが、「共生」の時代には、タンチョウの存在が地域住民にどのようにプラスになるかという視点も重要だと思います」と話します。

タンチョウの存在が将来も大切な存在であり続けるために、鶴居村らしい新たな視点での共生のあり方を模索しています。

自然環境

鶴居村は、雄大な釧路湿原国立公園や特別天然記念物タンチョウなど、豊かで美しい自然環境とともに生きる村です。酪農や観光をはじめとした地域の産業も、潤いのある暮らしも、鶴居村ならではの自然環境がすべての源泉となっています。

圧倒的な風景が広がる 釧路湿原国立公園

釧路湿原国立公園は、1987年に28番目の国立公園として指定されました。日本の湿地帯の約6割を占める、総面積約28,788ヘクタールの日本最大の湿原です。特別天然記念物のタンチョウをはじめ、生息する動植物は2,000

種以上にのぼります。ここにしかない圧倒的な風景と四季の美しさに目を奪われます。

釧路湿原の聖域、 キラコタン岬

6千年前は海だった釧路湿原。「キラコタン岬」は特別保護区域に指定され、絶滅したかと思われ



鶴居・伊藤タンチョウ サンクチュアリ

長年タンチョウを愛し、給餌活動を続けてきた故・伊藤良孝さん、トシエさんご夫妻の活動を受け継いだ(公財)日本野鳥の会が運営

する給餌場です。毎年11月から3月の期間に給餌しており、積雪期に多くのタンチョウが集まります。入館無料のネイチャーセンターでは、暖かい館内から望遠鏡で観察ができ、レンジャーによる解説も受けられます。



鶴居・伊藤タンチョウ
サンクチュアリのネイチャーセンター

たタンチョウが1924年に再発見された場所です。いまなお、徒歩でしか訪れることができないため、湿原の聖域とも呼ばれています。チルワツナイ川の蛇行は釧路湿原の核心。その絶景と蛇行の美しさは言葉を失うほどです。



チルワツナイ川の蛇行



T.O.P.I.C

木道を歩いて湿原を散策

温根内ビジターセンター

温根内ビジターセンターには、ここを起点として約1時間で1周できる全長3.1kmの木道コースがあり、四季折々の湿原の姿を楽しむことができます。

木道には、湿原の動植物などを紹介する解説板が設置されています。夏は木道沿いにハイケボタルの灯りを目にしたり、秋はタンチョウの声を聴きながら空を眺め、冬は歩くスキーやスノーシューで散策することもできます。



酪農

鶴居村の基幹産業である酪農は、先人のたゆまぬ挑戦の延長上にあります。昭和30年代後半から冷涼な気候に適した酪農への転換に成功し、現在は、北海道屈指の酪農郷として飛躍を続けています。乳質コンテストでは幾度も日本一に輝き、良質の牛乳を生産しています。

良質乳の安定化を促す 乳質改善の取り組み

安全・安心で良質な牛乳や乳製品に対する消費者需要が高まる中、安定的な良質乳の生産拡大を図るため、1986年から村の独自施策として乳質改善奨励を行っています。生産される良質乳1kgにつき1円以内の乳質改善奨励補助金を交付しています。

高品質の 生乳生産を支える ICT酪農

鶴居村では、法人化による大規模経営化が進んでいます。頭数を増やしつつも生乳品質を維持・向上させ、安定した酪農経営を行うため、ICTの積極的な活用を行っています。

搾乳作業の省力化や負担軽減につながるロータリー搾乳ロボット



ロータリー搾乳ロボット

や、運動量・食事量などのデータから牛の健康状態をリアルタイムに把握できるセンサーなどを導入し、時代に対応した酪農経営を進めています。

餌の品質向上と安定化 TMRセンター

大規模経営に対応したTMRセンターは、酪農家に供給する餌づくりのための施設です。牛の餌は、牧草やわらなどの「粗飼料」と、トウモロコシや麦など高カロリー「濃厚飼料」に分けられ、TMRはこれらにビタミンなど

を加えて均一に混ぜた栄養価の高い良質飼料です。

専用の施設でまとめて餌づくりをすることで、各農家の労力負担を軽減し、餌の品質の向上と安定化を図ることができます。鶴居村には2つのTMRセンターがあり、センターから農場へ良質な飼料を配達するしくみが確立されています。



TMRセンター

交流を目的とした 乳製品加工体験室

幌呂農村環境改善センター内にある「乳製品加工体験室」は、2023年に完成。チーズなどの乳製品づくりを通じて、生きがいづくりや利用者同士の交流につながることを目的とした施設です。

チーズづくりなどを愛好する村民が気軽に利用することができ、施設内にはシンク、冷蔵庫、ガスコンロ、真空包装機などチーズづくりに必要な機器一式を備えています。



乳製品加工体験室



T・O・P・I・C 地域自慢のブランド牛乳 産地限定北海道根釧よつ葉牛乳

鶴居村を含む釧路管内と根室管内は「根釧地域」と呼ばれ、牧草の栽培や乳牛の飼育に適した有数の生乳生産地。「産地限定北海道根釧よつ葉牛乳」は、この地域の高品質な生乳のみを使用した特選牛乳です。新鮮な生乳のおいしさを保つため、地域の工場で加熱殺菌・パックしています。鮮度への信頼から、地元で親しまれている牛乳です。



食文化

自然の恵みを生かした豊かな食文化は、鶴居村の誇りです。地域の産業から生まれた乳製品や肉製品、ワイン、ビールなどがあり、鶴居村のふるさと納税などでも、地産地消のおいしさを発信しています。

全国で高い評価を受ける 鶴居村のチーズ

鶴居村のチーズは非常に品質が高く、全国でも高い評価を受けています。酪農郷ならではの乳製品文化を根づかせるため、2004年から本格的なチーズづくりに取り



酪楽館のチーズ製品

り組んでおり、その拠点となっているのが農畜産物加工施設「酪楽館」です。

村自慢の良質な生乳で作られたナチュラルチーズ「鶴居」は、オールジャパンナチュラルチーズコンテストにおいて、最高賞を含む数々の賞を6大会連続で受賞し、北海道地チーズ博2022ハート・セミハード部門では1位に輝くなど、多くの人にその品質が認められ、村の代表的な特産品となっています。

厳選素材と加工技術で 味わい深い、エゾシカ肉

狩猟や駆除で捕獲されたエゾシカを地域の大切な食資源として活用し、捕獲から食肉加工までを一貫して行っているのが「未楽工房」です。同社のエゾシカ肉ブランド「鶴居ベニソン」は厳選した素材と高い加工技術が特長。特に

ロース肉やモモ肉は、捕獲後30分以内のメス、2歳以下のオスの個体のみを原料としています。さらに独自の熟成技術により、ジビエ肉特有の臭みが少なく、柔らかい肉質がおいしさの秘密です。



廃校を活用した クラフトブルワリー事業

2022年、クラフトブルワリー「ブラッスリーノット」がオープンしました。廃校となった旧茂雪裡小学校の素朴な外観を残しつつ、体育館をクラフトビールの醸造所とし、醸造工程を見学できる通路やビールの直売所も新たに整



鶴居村産山幸種使用「クロンヌルージュ」

備しました。

ブラッスリーノットが鶴居村を拠点に選んだ理由は、ビール醸造に適したおいしい水と、クラフトビールのイメージにふさわしい豊かな自然環境。「ノット(knot)」が結び目を意味するように、人や自然、地域との結び目が生まれる場所でありたいという願いが込められています。



ブラッスリーノットの外観(写真上)と醸造所の内部(写真下)

T・O・P・I・C

おいしさがあふれ出る チーズ入りメンチカツ「ぎゅっち」

「ぎゅっち」はナチュラルチーズ「鶴居」と、標茶町のブランド牛「星空の黒牛」を使った地域間連携コラボ商品。2020年の発売以降、人気を博しています。村内でできたてを味わえるのが、地域特産品等販売促進施設「鶴居たんちょうプラザ」。

【関連ページ P23】

店長の赤本卓也さんはぎゅっちの開発者でもあり、「ぎゅっちはチーズと肉汁の一体感が抜群。揚げたては、肉汁と溶けたチーズが口いっぱいに広がります。鶴居は質の良い食材がそろっているの、地域の皆さんの声を聞いて新たな産品を生み出すクリエイティブな場でありたい」と話します。



ぎゅっち(写真右)を販売している「鶴居たんちょうプラザ」(写真下)と赤本さん



花鳥風月と道東をイメージした定番商品

鶴居村営軌道

2018年に北海道遺産に選定された「北海道の簡易軌道」。

その一つである鶴居村営軌道は、昭和初期から約40年間にわたって村の暮らしを支えました。鶴居村では、歴史的・文化的資源として保全・活用を進め、その魅力を発信していくとともに、簡易軌道が存在した他地域とも連携して全道的に簡易軌道の歴史を伝える活動を目指しています。

鶴居村の発展を支えた40年のあゆみ

大正末期から昭和40年代にかけて、入植者の生活を支え続けた鉄路である簡易軌道は、農業・酪農地域の労苦と発展を語るうえで不可欠な存在です。

鶴居村では、1921(大正10)年に団体入植が開始。1923(大正12)年に発生した関東大震災では、被災者の救済のため北海道への入植が推奨されました。それに伴い増加した入植者の交通手段として、内務省北海道庁は道東・道北を中心に「殖民軌道」(戦後の簡易軌道)の敷設を進めました。根室本線新富士駅から鶴居村までは1927(昭和2)年に開業、当初は馬力によりました。以降、釧路市への人の移動や物資の運搬などを担い、鶴居村の発展に重要な役割を果たしました。1953(昭和28)年には、国

から村に管理が委託され「鶴居村営軌道」となりました。昭和30年代までは活発に利用されていたものの、道路整備や路線バス運行など交通事情の変化から、1967(昭和42)年、運行歴40年の節目をもって幕を降ろしました。



上幌呂に到着した「若鶴号」
1959-7-31 上幌呂★



続行運転で来た2両の自走客車(ディーゼルカー)は、下幌呂で中雪裡行きと上幌呂行きに分かれる
1959-7-31 下幌呂★

★の写真：J・W・ヒギンス氏撮影 名古屋レール・アーカイブス蔵



転車台で方向転換する単端式(運転台が片側のみ)の「若鶴号」
1959-7-31 上幌呂★

鶴居村営軌道跡は現在、「釧路湿原探勝路」として整備・活用されています



「鶴居村ふるさと情報館」の屋外展示では、昭和30年代に鶴居村営軌道で活躍したディーゼル機関車や自走客車(ディーゼルカー)、有蓋貨車を見学できます

■ 鶴居村営軌道のあゆみ

年	できごと
1925 大正14年	起工
1927 昭和2年	本線(新富士～中雪裡)28.8km、支線(下幌呂～上幌呂)15.5kmの計44.3kmが竣工、開通式が行われる
1929 昭和4年	使用開始の告示(書類上の正式開業)、雪裡線運行組合と幌呂線運行組合が設立される
1932 昭和7年	雪裡、幌呂軌道運行組合が合併し「雪幌線運行組合」となる(組合員数400人)
1941 昭和16年	藤村敏一によるバス改造木炭カーが運行開始、上幌呂国民学校で開通式を挙行、それまでの片道約8時間が約2時間半に短縮
1943 昭和18年	幌呂線延長完成(上幌呂～新幌呂・3.8km)
1952 昭和27年	北海道開発局による動力化改良工事着工
1953 昭和28年	北海道開発局から村に管理委託となり「鶴居村営軌道」となる、これにより雪幌線運行組合が解散
1956 昭和31年	簡易軌道で初となる自走客車(ディーゼルカー)投入、これにより新富士～中雪裡が1時間20分に短縮
1961 昭和36年	動力化の改良工事が完了、国道38号線の交通量増加により鳥取～鶴野で経路変更(新線へ切替)
1967 昭和42年	8月、運行休止
1968 昭和43年	廃止となる



8トンディーゼル機関車(日本輸送機・1954年製)※1950年代



発車が迫り、急ぐ乗客たち※1960年代 新富士



線路の保守作業、湿原区間は特に手間がかかった※1960年代

※印の写真：鶴居村教育委員会蔵



側面には「雪幌線ガソリンカー」の文字※1950年代前半

鶴居村営軌道の記憶



鶴居村営軌道OB
小野 正彦さん
(1933年鶴居村生まれ)

私は子どもの頃から機械が好きで、ラジオを解体してみたり、おもちゃを買ってもらえば中を見ないと気が済まないような子でした。そんな機械好きが高じ、中学卒業後に殖民軌道の車庫工場に勤務。高校進学を望んでいた親の反対を押しきっての就職でした。

仕事はすべて見よう見まねで覚え、自力で学んできました。運転士として最も過酷だったのが、雪との闘いです。釧路までの沿線には、2mもの高さに雪が吹きだまる難所があり、脱線すると一晩中、雪かきをしなければなりません。ガソリンカー時代は脱線が日常茶飯事でしたし、10人がかりで雪かきをして一晩かかることもありました。寒さや空腹などは感じる暇ありませんでした。

村営軌道の主な役目は、鶴居・釧路間の人の輸送。鶴居からは出張に行く役場や農協の人たちを乗せ、釧路からは定期的に衣類などの問屋さんが乗っていました。ほかに釧路からは、豆腐や油揚げなどを運び、村営になってからは郵便物を毎日運んでいました。車両は、立って乗ると定員60人ぐらい。昼は乗客が少ないですが、朝晩は多かったですね。

時には妊婦さんやけがした人を釧路まで運ぶ救急車代わりにもなりました。一番楽しかったのは、臨時列車で花火大会を見に行ったことでしょうか。

鶴居村営軌道の最後の勤務は1967(昭和42)年8月のお盆過ぎでした。長く勤務しましたが、辞めようと思ったことは不思議と一度もありません。いま振り返ると、やっぱり機械が好きだったからだと思います。

「北海道の簡易軌道」が北海道遺産に選定されたことを機に、鶴居村営軌道の歴史と文化が後世に大切に受け継がれていくことを願っています。

情報協力：釧路市立博物館

「日本で最も美しい村」連合の 加盟自治体として

自然と人間の営みが長い年月をかけてつくり上げた

本当に美しい日本を未来に残したい。

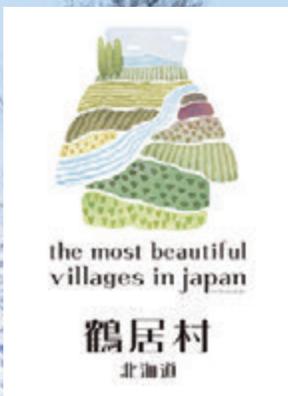
小さくてもオンリーワンの輝きを持つ日本の美しい村を――。

それが「日本で最も美しい村」連合の基本理念です。

失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、

最も美しい村としての自立を目指すという趣旨に共鳴し、

鶴居村は、2008年から同連合に加盟して活動を続けています。



美しい村に誇りを持ち 住民自らの手で進める 地域づくり

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、すばらしい資源を持つ美しい地域が誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行い、地域の活性化と自立を住民自らの手で推進することを目的として、フランスをモデルに2005年から日本で活動がスタートしました。

生活の営みにより形成されてきた景観・環境や地域の伝統文化を守り、これらを活用することによって観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としています。

加盟自治体は全国約60町村（2023年11月現在）で、基本理念を共有しつつ、それぞれに地域づくりを推進しています。

5年ごとの資格審査で 鶴居村は高い評価

すべての加盟自治体は、5年程度に1度の再審査を受けることとなり、おり、加盟後も「日本で最も美しい村」として妥当かどうかについて資格審査がなされます。

2022年の資格審査において、鶴居村は、これまでの取り組みや今後の可能性も含めて高い評価を受けました。

今後も「タンチョウと共生する村」として、自然の恵みや豊かな環境、地域資源を最大限に生かしながら、鶴居村らしい美しい村づくりを進めていきます。【関連ページP.28・29】

あす 未来を奏でる

鶴居スタイルの確立

～協働による新たな時代への挑戦～

鶴居村は、将来のむらづくりの指針として、
2027年度までの10年間を計画期間とする
第5次鶴居村総合計画「つるい未来創造プラン」を進めています。

むらづくりの方向

●美しい自然を生かしたむらづくり

村の強みである美しい自然の保全と共生を推進するとともに、
地域資源を活かした観光や
新たな産業の振興に取り組むむらづくりを推進します。

●村民にやさしいむらづくり

村民の誰もが安心して快適に暮らすことができ、
ともに支え合い、
生きがいを持って生活することができるむらづくりを推進します。

●「鶴居びと」を醸成するむらづくり

鶴居村に愛着とプライドを持ち、
豊かな人間性を持った「鶴居びと」を醸成します。
また、「鶴居びと」の資質をもとに、
世代や地域、立場を超え、
村民と行政が協力し合ってよりよいむらづくりを推進します。

基本目標1 「産業・雇用・観光」

地域特性を活かした活力あるむらづくり

豊かで活力のあるむらづくりに向けて、第1次産業から第3次産業ま
で多様で調和のとれた魅力と活力あふれる産業振興を推進します。

基本目標2 「保健・医療・福祉」

ともに支え合い生き生きと暮らせるむらづくり

すべての住民が健やかに安心した生活が送れるように健康・福祉の向
上に努めます。各種保健事業を充実させるとともに、住民組織や団体
などと連携し、地域ぐるみの健康づくりを推進します。また、住民の
命を守るため安心して必要な医療を受けることができる環境や救急医
療体制の整備に努めます。

基本目標3 「生活環境」

安心・安全で快適に暮らせるむらづくり

本村を取り巻く豊かで美しい自然環境と調和した、誰もが快適で暮ら
しやすく、安らぎとうるおいのある生活環境の形成を推進します。ま
た、消防・救急体制の充実、交通安全・防犯対策の推進などの取り組
みを進め、誰もが安心・安全で快適に暮らせるむらをめざします。

基本目標4 「環境保全」

豊かな自然と共生する美しいむらづくり

本村には豊かな自然、美しい景観など都市では得ることのできない魅
力があります。その魅力を次の世代へと大切につなぐため、自然と調
和した循環型社会の形成を図ります。また、公園や緑地の整備、景観
形成などを通じて「美しい村」にふさわしいむらづくりを推進します。

基本目標5 「教育・文化」

豊かな人間性を育むむらづくり

次代を担う子どもが健やかに育つための教育環境の充実、各世代が生
涯学習やスポーツ・文化に親しむ環境の整備を図り、豊かな人間性を
備えた「鶴居びと」の醸成をめざします。

基本目標6 「地域づくり・行財政」

みんなで歩む協働のむらづくり

積極的な情報公開と村民参画による協働の取組を推進するとともに、
自主・自立した行財政基盤、効率的で健全な行財政を進める体制を確
立し、信頼される行政運営を推進します。

地域特性を活かした活力ある むらづくり

酪農に加え、地域資源を生かした林業や観光なども鶴居村を支える重要な産業です。活力あふれる多様な産業により、村の経済成長力を高めていきます。

100年先を見すえた 豊かな森林づくり

村の総面積の約64%を森林が占めているため、林業は酪農に次ぐ基幹産業です。村の森林は釧路湿原の上流域に位置することから、自然環境に配慮した森林施業に早くから取り組んできました。



鶴居村森林組合

は2010年以降、林業先進地ヨーロッパを基本に持続可能な森林管理手法を導入・実践し、100年先の豊かな森林づくりにつなげる作業システムを構築してきました。排水性に優れた欧州型作業道の屋根型の構造により、林地へのダメージを最小限に抑え、大雨に強く、湿原に土砂が流れにくい工夫をしています。



村内で生産される木炭

どに利用されるほか、村の地域資源循環活用施設で製造されたおが粉は牛舎の敷料として酪農を支えています。さらに近年では、森林環境税や森林環境譲与税の活用を推進し、森林施業や森林作業道整備、林業の担い手確保、森林環境教育、木育活動などに取り組んでいます。

一年を通して乗馬ができる 鶴居どさんこ牧場

鶴居どさんこ牧場は、北海道の開拓に欠かせなかった「道産馬（どさんこ）」によるホーストレッキングができる施設です。

どさんこの正式名は「北海道和種馬」。日本でも珍しい在来馬の一種で、開拓期に運搬馬や農耕馬として活躍した、道民にはなじみ深い馬です。鶴居どさんこ牧場では、一年を通し



ホーストレッキング

鶴居で楽しむサイクリング 道東の拠点づくりへ

鶴居村では近年、サイクリングを



TSURUIサイクルスポーツフェスティバル

村の新たな魅力づくりに生かす取り組みが活発です。その代表的なイベントが、村民の森で開催された「TSURUIサイクルスポーツフェスティバ

ル」。幼児から80代まで参加するマウンテンバイクレースと地域の食が楽しめるイベントです。主催した「鶴居サイクルスポーツ振興会」は、2021年に活動をスタート。サイクルスポーツの普及やイベントの開催を通じて、自転車の利用促進や安全意識の向上、健康増進などに取り組んでいます。

特産品や観光情報を通じて 地域の魅力を発信！

地域特産品等販売促進施設「鶴居たんちようプラザ」では、乳製品やクラフトビール、エゾシカ肉を使った加工食品、地元作家によるさまざまなクラフト製品などの特産品や地場産品を販売しています。また、鶴居村をはじめとする周辺地域の観光情報を発信しています。

鶴居村を訪れた人には、ここにしかないものを見つける楽しみがあり、村



「鶴居たんちようプラザ」つるぼーの家

民や地域住民にとっては、気軽に交流のできる場として親しまれています。

【関連ページP15】

つなごう！未来へ



鶴居ならではの魅力を
サイクリングで
体感してほしい

(有)泰都 専務取締役
BICYCLE SQUARE サイクリングガイド・インストラクター
和嶋 貴義さん

(有)泰都が運営する「HOTEL TAITO」に併設した「BICYCLE SQUARE (バイクスク)」を拠点として、サイクリング事業を展開している和嶋貴義さん。「鶴居村の大自然の魅力を体感してほしい」と自らコースを造成し、多彩なサイクリングツアーに取り組んでいます。

鶴居村の代表的な観光資源といえばタンチョウと釧路湿原ですが、「それだけではなく、酪農や林業など地域に密着した暮らしの風景も魅力。目的地までのプロセスも含めて地域をまるごと楽しめるのがサイクリングです」

父で写真家の和嶋正宏さんの撮影に幼い頃から一緒に出かけ、撮影スポットのを見つけ方や土地勘などを吸収したと言います。その経験を存分に生かして、2022年には独自のサイクリングマップを作成。「鶴居で生まれ育った自分にはできない魅力発信として、サイクルツーリズムを根づかせられたらうれしい。体験の主役はお客さま。道内外から自転車を持って鶴居に遊びに来てほしい」と話します。

想いを共有する有志とともに「鶴居サイクルスポーツ振興会」を立ち上げ、サイクリングイベントを通じて地域のネットワークづくりにも取り組んでいます。

ともに支え合い 生き生きと暮らせるむらづくり

住み慣れた地域で、ともに支え合いながら健やかに暮らせるよう、鶴居村では、保健・医療・福祉の充実に努めています。【P.34・35参照】
 今後も、村民が安心して暮らせる環境づくりを進めていきます。



子どもセンター「こすもす」

子どもの健やかな 成長を支える 子育て支援拠点複合施設

子どもセンター「こすもす」は、保育園、学童保育、児童館、子育て支援センターの機能を兼ね備えた子育て支援拠点複合施設です。
 子育て世帯の利便性や交流機会の向上を目指し、施設の複合的機能を生か



鶴居村立鶴居診療所



鶴居歯科診療所

した運営の充実に努めています。
 施設内は木をふんだんに使った温もりのある空間で、南面に配置した保育室や、自然光を採り入れた明るい遊戯室など、子どもたちがのびのびと過ごせる工夫を施しています。
 また、食を通じて子どもたちの成長を促し、子育て世帯の負担を軽減するため、給食費用の完全無償化も継続しています。

地域で安心して暮らせる 医療環境を提供

医療の安定確保を図ることは、村民の健康維持と安心した暮らしに欠かせない最も重要な行政サービスです。
 村では、鶴居村立鶴居診療所（内科・小児科・外科）の診療や運営の充実を図るとともに、つるい養生医病院（内科・精神科・神経科）との連携、鶴居歯科診療所（歯科）の経営安定のための支援を行っています。

また、釧路圏域における2次医療圏の医療提供体制と連携して、村民が安心して暮らすことのできる医療の確保に努めています。

高齢者をはじめ多世代が 集う地域福祉サロン

村民福祉センター「あすぽっと」は、村民が住み慣れた地域で安心して過ごすことができ、ともに支え合い、ふれあいを通じた地域福祉活動の向上を図ることを目的として、2021年



村民福祉センター「あすぽっと」

に開所しました。
 地域福祉のネットワーク拠点として、施設内に鶴居村社会福祉協議会を置き、交流スペース、会議室、ホールなどを備えています。月1回行われるサロン活動では、パソコン教室や介護予防の「ふまねっと運動」などが定着し、高齢者をはじめ多世代が集う場となっています。



「あすぽっと」でのサロン活動

また、非常用電源10カ所を備えた福祉避難所としての機能もあり、災害時にも対応する施設として活用していきます。

つなごう！未来へ



安心して過ごせる
第三の居場所づくりを
目指しています

NPO法人ソレゾレ 副理事長
角田 めぐみさん

自然豊かな高台にある「ソレゾレ カラーズ」は、2021年にオープンした村内初の障害児通所施設。運営を担う角田めぐみさんは、「障害のあるお子さんや発達に心配のあるお子さんに放課後や休日の居場所を提供する『放課後デイサービス』と、一時的な見守りを行う『日中一時支援』を行っています」と話します。

角田さんは釧路管内で長く小学校教員を務め、想いを実現するために退職して「ソレゾレ」を設立。「私は三児の母で、重度障がいのある次男を育てながら教員を続けられたのも地域の皆さんのサポートがあったから。コロナ禍で臨時休校が続いた時期に、子どもたちにとって家庭や学校以外の『第三の居場所』が必要だと痛感し、子育て環境に優れた鶴居ならきっとできると一念発起しました」と話します。

事業開始から約3年間で、ソレゾレの運営を支える人の輪は村内外に広がり、地域のさまざまな世代の人たちが自分のできる方法で協力してくれることが励みだと言います。

「ソレゾレは、鶴居村ならではの自然環境での遊びや体験を通して、子どもたちが自分らしく過ごせる場づくりを目指しています。鶴居村の価値を生かし、みんなが安心して過ごすことのできる第三の居場所づくりをしていこうと思います」

安心・安全で 快適に暮らせるむらびり

鶴居村は、釧路・根室管内で唯一、転入者数が転出者数を上回る「転入超過」の自治体（2022年度）です。村の価値である快適で暮らしやすく、やすらぎのある生活環境をさらに高めていきます。



遊歩道や公園も整備された「下幌呂希の杜団地」

豊かな自然に囲まれた 森の中の住宅地

村では、村民の定住促進や村外からの移住ニーズに対応するため、下幌呂地区を中心に宅地を造成しています。

下幌呂地区で分譲販売をしている



鶴居村デマンドバス

地域のニーズに対応する 鶴居村デマンドバス

路線バスをはじめとした公共交通は、通学や通院、買い物などの日常生活に欠かせない移動手段です。村では、公共交通の現況調査やアンケート調査などから抽出された課題をもとに、今後の望ましい公共交通網の姿を示した「鶴居村地域公共交通プラン」を進めています。

その一環として、民間事業者と連携



の利用を高めています。

IP告知端末とアプリの 連動により災害時にも役立つ 地域情報を配信

村では、村民が双方向でやりとりができるコミュニケーションツールとし

てIP告知端末を全戸に設置しています。村のお知らせなどを自宅にないながら受け取ることができ、テレビ電話として顔を見ながらの通話もできます。

また、IP告知端末と連動してスマートフォンやタブレットで情報を得られるモバイルアプリ「JC-Smart」

を活用しています。通常時には地域密着型の情報アプリとして機能し、災害時には、避難経路や安否確認に役立つ防災アプリとして活用できるものです。



全戸に設置されているIP告知端末とモバイルアプリ



つなごう！未来へ



自然に囲まれた環境で
愛犬との暮らしを
楽しんでいます

美容室コンフィ 店主
田畑 加奈さん

2019年、釧路市から鶴居村に夫婦で移住した田畑加奈さん。自然豊かな森のそばに住居兼美容室を新築し、鶴居村ならではのライフスタイルを楽しんでいます。

「私たち夫婦は大の愛犬家で、アウトドアも好き。大型犬2頭を子どものように育て、犬がメインの生活を送っています。自然豊かな環境にいと、仕事と生活とのバランスが整いやすく快適です。夫は釧路市内に通勤していますが、家から車で20分ぐらいなので、転居後も不便はありません」と話します。

田畑さんが「5坪の小さな森の美容室」と呼ぶ現在のサロンは、お客さまと1対1で過ごせる穏やかなプライベート空間。正面のピクチャーウィンドウからは、四季の森の風景が絵画のように見え、お客さまとの会話も弾みます。

「住居兼サロンになったことで時間に追われず、仕事の合間に犬の散歩ができるようになりました。私自身が気持ちに余裕をもって生活することが、犬のリラックス度や健康状態に表れるんです。お客さまも癒やされにいらっしやいますよ」。自然に囲まれた鶴居村での暮らしが、公私の両面に良いリズムを生んでいるようです。

豊かな自然と共生する 美しいむらづくり

鶴居村には、豊かな自然や美しい景観など、都市では得ることのできない魅力があります。その魅力を次の世代へとつないでいくため、自然環境と調和した「美しい村」にふさわしいむらづくりを進めています。

美しい景観と調和する 太陽光発電事業を推進

村では、地域と共生して調和のとれた太陽光発電事業を促進するために、「鶴居村美しい景観等と太陽光発電事業との共生に関する条例」を制定しました。鶴居村の美しい景観、豊かな自然環境や生活環境を村民共通の財産とし、将来にわたってその保持・保全を図られることを基本理念としています。

そのため、条例では、発電出力が10kW以上の太陽光発電施設を設置する事業者に村への届出を義務付け、適切な管理を行うよう定めています。さらに、村を象徴する魅力的な景観を含む区域や、太陽光発電事業によって

周辺地域に著しい影響を及ぼす可能性のある区域などを「抑制区域」に指定しています。

ふるさとを未来につなぐ 鶴居村 ゼロカーボンシティ宣言

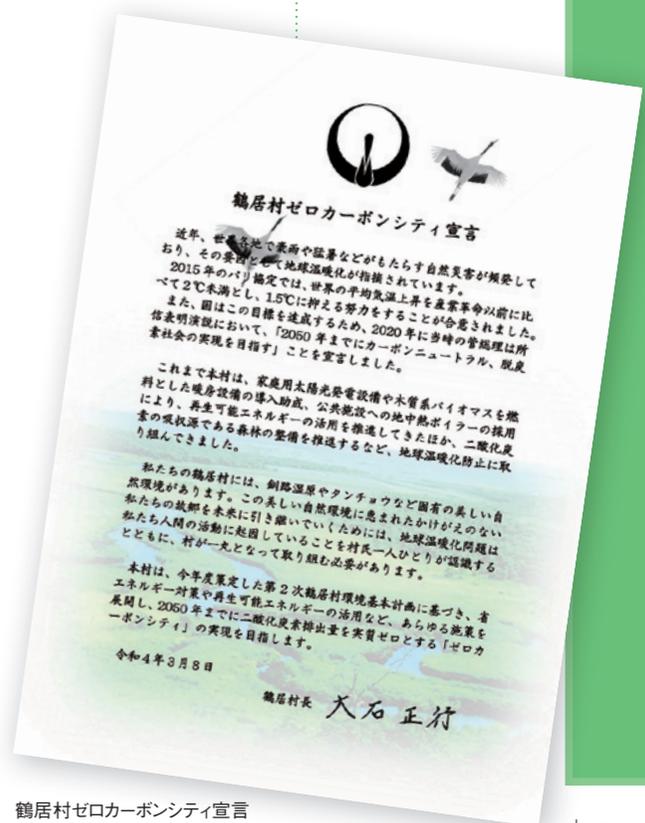
鶴居村では、かけがえないふるさとを未来につないでいくため、2050年までに二酸化炭素排出について実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」への参加を2022年に宣言しました。村の組織や施設におけるすべての事業・事業から発生する温室効果ガスの排出を抑制するため、率先して地球温暖化対策の推進を図ることを目的として策定しています。



方針、取り組みなどを定めるものです。村民をはじめ事業者、行政が認識を共有し、鶴居村ならではの景観むらづくりを推進していきます。

2022年に改訂した「鶴居村地球温暖化防止実行計画」の趣旨に沿って、村民や事業者とともにゼロカーボン実現のための意識を共有しながら、

計画的な植林をはじめ、再生可能エネルギーの導入、事業所や家庭で実践できる行動など、幅広い取り組みを実践しています。



鶴居村ゼロカーボンシティ宣言



かけがえない景観を 未来へつむぐ 鶴居村景観計画

鶴居村の美しい景観、多様な生き物が生息する豊かな自然環境、村民が日々生活する環境はかけがえないものであり、守り、つくり、活かすことにより、この美しい村を未来へつなげ、「誇りある美しい鶴居村をつくる」ことを目標に、景観むらづくりに取り組んでいます。

こうした背景から、村は、景観行政団体への移行（2024年2月）、景観条例の制定（2023年12月）、景観法の規定に基づく景観計画（かけがえない景観を未来へつむぐ）の策定を行いました（2024年3月）。

景観計画は、村の景観むらづくりの総合的な指針として、理念や目標、

つなごう！未来へ



村民や自治会の手で「美しい村」の価値を高めていきたい

鶴居村美しい村づくり推進協議会 会長
松井 洋和さん

鶴居村が「日本で最も美しい村」連合に加盟した2008年以降、村民や各自治会の力で美しい村づくりのためのさまざまな取り組みが行われてきています。こうした取り組みの充実とともに、村民や関係団体との情報共有を図るため、2022年に「鶴居村美しい村づくり推進協議会」が設立されました。

協議会では、4月下旬の村民一斉清掃のほか、「日本で最も美しい村」連合が行う10月のビューティフルデーに村内の清掃活動や地域の文化に触れる活動などを行っています。

同協議会会長の松井洋和さんは、「鶴居村の皆さんはきれいな好きの方が多く、村への愛着度も高いと思います。地域を美しく保つために日々努力されている各自治会の皆さんの熱意と活動をサポートできる協議会でありたいですね。日本で最も美しい村連合に加盟していることは鶴居村の付加価値ですし、村民の誇りにもつながっていくと思います」と語ります。



豊かな人間性を育むむらびづくり

次代を担う子どもが健やかに育つための教育環境の充実、各世代が生涯学習やスポーツ・文化に親しむ環境の整備を図り、豊かな人間性を備えた「鶴居びと」の醸成を目指します。

村民スポーツ・健康増進施設「ファミスポ・アップ」

村民スポーツ・健康増進施設「ファミスポ・アップ」は、2022年にオー



村民スポーツ・健康増進施設「ファミスポ・アップ」

プンした村民のための健康施設です。前身の施設の老朽化に伴って建て直しが行われ、耐震性に優れた鉄筋コンクリート造りと温かみのある木造りの両方を取り入れ、幅広い世代が利用しやすい施設に生まれ変わりました。

開放感のあるメインアリーナの2階には1周140mのランニングデッキがあるほか、ヨガやエアロビクスなどのできるサブアリーナ、最新の機器をそろえたトレーニングルームやキッズルームも完備しています。



ふるさと給食で人気の「鹿肉カレー」

ふるさと給食でエゾシカ肉メニューが定着

村では、地産地消の取り組みとして、村内で生産された食材を給食で提供する「ふるさと給食」を実施しています。その中で、地元産のエゾシカ肉を使った給食を村内全校で年2回程度提供しています。

最初はジビエ（狩猟肉）特有の食感に慣れない児童もいましたが、「鹿肉ハンバーグ」や「鹿肉カレー」など、調理法の工夫によってエゾシカ肉のおいしさが定着し、いまではリクエスト給食の上位人気メニューにエゾシカ肉が挙がるようになりました。

中学生が赤井川村交流から村づくりを考える

鶴居中学校と幌呂中学校の生徒を対象に、「鶴居村ふるさと創生中学生派遣交流事業」を実施しています。2022年からは、「日本で最も美しい村」連合に加盟する赤井川村への派



鶴居村ふるさと創生中学生派遣交流事業で鶴居村をPR

遣がスタートしました。赤井川村の施策について説明を受け、鶴居村の施策と対比させながら、これからの鶴居村の村づくりを考える貴重な機会となっています。

また、新千歳空港では、旅行客向けに鶴居村のPR活動も行っています。



新千歳空港で観光客に鶴居村をPRする中学生

村政について自ら考える中学生模擬議会

将来の鶴居村を担う若者に政治や議会の役割について関心を持ってもらうと、2022年、23年ぶりに「中学生模擬議会」を開催し、以降も継続しています。

議員役となった生徒たちは、鶴居村議会本会議場で参加し、村政について自ら考え質問する体験をしました。「ふるさと創生中学生派遣事業」などを通して学んだ鶴居村の村づくりについて考えた提言などを一般質問として投げかけ、それに対して村長と教育長がわかりやすく答弁をしました。学校からオンラインで傍聴した生徒たちからは、「これからも鶴居村の未来について考えたい」などの感想が聞かれました。



中学生模擬議会

つなごう！未来へ

陸上をきっかけに子どもたちの成長を応援したい



鶴居アスリートクラブ代表 菱沼 恭平さん

鶴居アスリートクラブ代表

2017年に発足した鶴居アスリートクラブは、小中学生40人以上が所属する地域の陸上クラブ。代表の菱沼恭平さんは、「最初は娘の陸上トレーニングのために、全国出場経験のある村内の元陸上選手にコーチを依頼したのがきっかけ。一緒に参加したいという子どもの輪が広がり、自然発生的に鶴居アスリートクラブができました」と経緯を話します。

自身も小中学生時代に陸上に打ち込んだという菱沼さん。「陸上はすべてのスポーツの基礎。陸上をきっかけに、子どもたちの心身の成長を促したい」。小中学生と一緒に参加できることも、子どもたちのモチベーションになっているようです。

週2回、19時から約90分のトレーニングでは、冬は屋内での基礎づくりが中心。夏場は屋外での練習となり、短・中・長距離走、幅跳び、高跳び、ジャベリックボール投げ、砲丸投げなどの競技練習に集中します。

「年々、記録会や予選会での成績は伸びていて、全道大会で活躍する子もいます。陸上をきっかけにさまざまなスポーツに挑戦する子が増え、鶴居村のスポーツ熱を底上げできればいいですね」



みんなであらゆる歩む協働のむらづくり

村では、積極的な情報公開とともに村民との協働の取り組みを進めています。

「自分たちの村は自分たちがつくる」という共通認識のもと、

自助・共助・公助を基本にした協働のむらづくりを進めています。

SNSを通じて

鶴居村の魅力と情報を発信

村民と行政との情報共有やコミュニケーションを活性にするため、広報誌やウェブサイトのほか、SNSを活用した情報発信を積極的に行っています。

Facebook



村の行政情報やイベント情報

Instagram



村の魅力を伝える画像やショート動画

LINE



ふるさと納税情報

YouTube



村の魅力を伝える動画の配信

X (旧ツイッター)



村の行政情報やイベント情報



「札幌ふるさと鶴居会」令和5年度総会

村出身者ネットワークを鶴居村の求心力に

鶴居村出身者のネットワークとして「釧路鶴居会」「本州在住鶴居会」「札幌ふるさと鶴居会」の3団体があり、村ではこれらの会の活動を支援するとともに連携協力を図っています。

村との交流を深めるための機会や親睦活動、村が行う地域振興や魅力発信事業への協力を通じて関係を強めることにより、都市部からの人の流れやニーズを把握し、地域産業の振興や地域間交流を活発化させる取り組みを進めています。

人材育成の場としての「つるい未来塾」

2020年に発足した「つるい未来塾」は、若い世代が中心となって交流しながら、村づくりのあり方に



「つるい未来塾」のプロジェクト活動

ついて意見を交わすコミュニティです。対象は、鶴居村に関心のある高校生から45歳までの村内外在住者が

メンバーです。活動は年4回程度。村や地域活動での村づくりに関する取り組み、活動内容などを学び、さらに魅力ある村にするためのプロジェクトを企画して村に提言するなどの活動をしています。

大塚製薬と健康づくりなどで包括連携協定

村は2021年、大塚製薬との間で、村民の健康づくりや防災などの分野で包括連携協定を結びました。同社には、村で開催される健康に関するイベントへの講師派遣のほか、防災備蓄品や災害対策用の自動販売機の設置、熱中症対策や高齢者の健康維持に関する情報提供などで連携を図っています。



オンラインで行われた大塚製薬との包括連携協定締結式

つなごう！未来へ



ふるさと鶴居村を誇りに思い、発展を願っています

札幌ふるさと鶴居会 会長
松井 孝篤さん

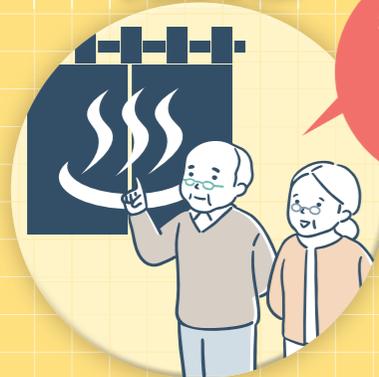
札幌ふるさと鶴居会は、札幌市および近郊に住む鶴居村出身者のネットワーク組織として、2019年に会員数34人で発足しました。コロナ禍による活動休止期間を経て、2023年に活動を再開し、会長の松井孝篤さんの思いはひとしおです。「鶴居村の魅力は、美しく豊かな自然環境と温かな地域コミュニティ。鶴居での記憶は人生の大切な財産です。村外に住み、離れているからこそ感じる深い情緒があります」今後、会の取り組みとしては、札幌近郊で行われる鶴居村の物産展やイベントへの協力や、鶴居村へのツアーなどを計画。また、村出身の学生が進学とともに札幌近郊で新生活を始める場合などに、緩やかなサポート体制づくりも視野に入れています。

「元気な自治体として注目されている鶴居村を誇りに思います。会員との絆を深め、鶴居村の発展に貢献していきたい」と語ります。

デー タ で 見 る や さ し い 暮 ら し

福祉・医療をはじめとした手厚い行政サービスは、子育て世帯から高齢者世帯まで鶴居村の住みやすさと暮らしの安心感につながっています。

高齢者温泉入浴助成券 交付事業



温泉施設
無料
入浴券

70歳以上の方に、健康増進を目的として村内の温泉施設で利用できる7,200円分の入浴券を交付しています。

緊急通報装置 貸与事業



ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方に対し、看護師や相談員に24時間365日つながる緊急通報装置を無料で貸し出しています。

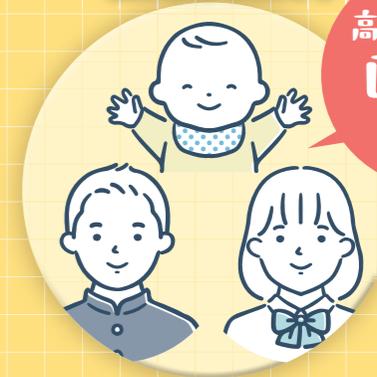
3歳未満児の 保育料無償化



3歳
未満児の
保育料
¥0

国による保育料無償化の対象外となる課税世帯の3歳未満児について、子育て世帯の支援拡充として保育料の助成を行い、無償化の対象としています。

高校生までの 医療費無料



高校生までの
医療費
¥0

乳幼児・児童生徒を養育している保護者の方に、保険診療の範囲内でかかった医療費の自己負担分を助成しています。18歳に到達する年度の末日(3月31日)までが対象です。

带状疱疹 予防接種助成事業



带状疱疹
予防接種
11,000円
まで助成

50歳以上の带状疱疹の発症を予防し、罹患後の重症化や後遺症を防ぎ健康の保持増進を図るため、接種費用1回当たり11,000円を上限に助成します。

不妊治療費等助成



不妊治療費
等助成
1回
20万円

不妊治療にかかった費用や受診の為の交通費の一部を助成する北海道の助成とは別に、村独自の制度として、1回の治療につき20万円を限度に助成します。

給食費無償化



給食費
¥0

食を通じて子どもたちの成長を促し、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、保育園、小・中学校の給食費の完全無償化を実施しています。

出産時祝金・就学祝金支給



第1子
10万円

第2子
20万円

第3子以降
30万円

就学祝金
5万円

新生児の誕生を祝福する出産時祝金を贈呈しています。また、小学校入学時に就学祝金を支給します。

2月中旬 タンチョウフェスティバル

タンチョウ観察のピークである2月に開催され、裸足の片足立ちで何分耐えられるかを競う「耐寒競技」や「鳴き声コンテスト」など、タンチョウにちなんだ来場者参加型のお祭りです。



鶴居村 4大イベント

8月14日

鶴居ふるさと 盆踊り花火大会

音楽に合わせて間近で打ち上げられる迫力満点の花火大会が目玉です。露店の飲食で賑わう中で、子どもも大人も輪になって踊り、花火を楽しむお祭りです。



7月下旬 つるい 納涼まつり

多くの露店が出店して賑わいを見せるほか、ステージイベントや豪華景品が当たる抽選会などが行われ、子どもも大人も楽しめるお祭りです。



9月23日 鶴居村 ふるさとまつり

「牛乳早飲み競争」や牛の鳴きまねを競い合う「モーモーコンテスト」など、酪農にちなんだ来場者参加型イベントが人気です。地域の小中学生の演舞や演奏のほか、牧草ロール神輿の練り歩き、鶴居産野菜の即売会、露店やバーベキューコーナーなど、多くの村民が参加し、飲食やイベントを楽しむ村最大のお祭りです。



村民スポーツ・健康増進施設 「ファミスポ・アップ」



優れた耐震性と木造りの温かさの両方を採り入れて2022年にオープン。幅広い世代が利用しやすい施設として生まれ変わりました。



農畜産物加工施設「酪楽館」



牛乳や肉などを使った加工品の研究開発、実習体験を通じて、農業への理解と交流を深めることができる施設です。

鶴居村役場・ 鶴居村総合センター



村の中心部に立地。庁舎に接続する総合センターには多目的ホール、視聴覚室、各種研修室、実習室などを備えています。

ふるさと情報館「みなくる」



郷土展示館、図書館などを備えた複合情報施設。基幹産業の酪農の紹介を中心に、タンチョウや湿原について楽しく学べます。

鶴居運動広場



親子で楽しめる遊具を備え、バーベキューも味わえます。ホテルグリーンパークつるいに隣接しています。

地勢

阿寒カルデラ外輪山を貫流する雪裡川、幌呂川、久著呂川の流域に沿って広がる雪裡、幌呂、久著呂の3原野で構成されています。流域はいずれも農耕適地で、大規模草場が広がっています。

標高

最低が本村南部の湿原地帯で3.6m、最高が阿寒山麓の原始林帯で812mとなり、農耕適地は40~200mの地帯に拓かれています。

気候

年間平均気温は6.1℃と冷涼ですが、夏は湿気が少なく比較的温暖な日が多い内陸型の気候です。秋は台風の影響はほとんどありません。冬は雪が少なく晴天の日が続きます。

アクセス

釧路駅へは車で約50分で到着できる好適地にあり、交通環境においても好条件が揃っています。

●主要地点からの距離



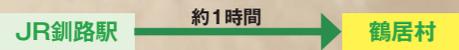
●飛行機の場合



●JRの場合



●バスの場合



●車の場合



阿寒IC~釧路西IC(延長17km)が開通した場合、釧路空港→鶴居村は車で5分程度短縮

ようこそ鶴居村へ

位置

鶴居村は、北海道釧路総合振興局管内のほぼ中央に位置し、東は標茶町、北は弟子屈町、南は釧路湿原国立公園をはさんで釧路市および釧路町に隣接しています。



- 位置 東経144度19分35秒 北緯43度13分59秒
- 面積 571.80km²



阿寒IC~釧路西IC(延長17km) 2024年度開通予定